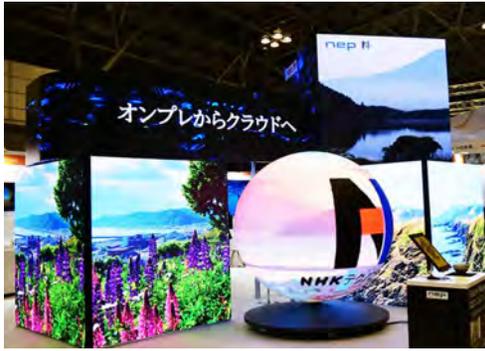


NHK/JEITA

NHKは、「進化を体感! ~広がるメディアの可能性~」をコンセプトに、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)と共同で出展し、NHKのサービスや最新の技術を下記のような3つのテーマで紹介したほか、あわせてオンライン



展示も行った。(以下、リリース資料より抜粋)

■ AI 技術・IP 活用 ■

最新テクノロジーを駆使した番組制作技術を展示。AI 技術を活用した開発事例として、撮影した映像から顔を認識して自動で追従し、映像加工(ぼかし)ができる「AI自動顔ぼかし」や、顔と名前をAI学習させ、映像上に自動で名前を付加する「FaceDetector」を展示した。番組で使用する「パターン(フリップ)」をAR技術によりデジタル表示するデジタル・パターンは、表現の幅を広げるとともに、紙資源の削減など環境経営にも貢献する。



デジタル・パターン

■ 未来のメディア ■

2030~2040年頃には、日常のあらゆる生活空間で、いつでも好みの機器を使って没入感・臨場感あふれるコンテンツを視聴・体感できるメディア環境の実現を目指しています。ヘッドマウントディスプレイによる次世代のライブエンターテインメント体験や、自由に变形できるディスプレイなど、未来のメディアを実現するための最新の研究成果を展示した。



イマーシブメディアが描くコンテンツの未来

■ 4K8K 普及推進 ■

新4K8K衛星放送は放送開始からまもなく5年を迎え、受信機のラインナップも豊富になり、出荷台数は1,700万台を超えた。会場では、超高精細映像を活用した事例として、4式のカメラを使って縦方向12Kの映像から切り出した、迫力あるロケット打ち上げ映像を紹介。

2023年12月に再編を予定していたNHK衛星放送について、新たな番組編成などをご案内するほか、4K8K放送の多彩な魅力と、ご家庭などの受信環境に応じた適切な受信方法を紹介した。



ロケット打ち上げ撮影用マルチカメラシステム

■ 展示内容 ■

■ AI 技術・IP 活用

デジタル・パターン: AR技術を用いた新たなパターン活用(紙資源削減による環境経営の取組み)

リアルタイム顔認識「FaceDetector」: AI技術を活用して顔認識を行い、名前などの情報を付加表示する技術

VirtualNHK「NHK版メタバース」: バーチャル空間での制作プラットフォーム

AI活用による顔ぼかし: AI技術を活用して、顔ぼかし映像処理の自動化を実現

NHKプラス/NHKニュース・防災アプリ: インターネットでNHKの番組やニュース、防災情



報を届けるアプリの紹介

イマーシブメディアが描くコンテンツの未来

■ 未来のメディア

イマーシブメディアが描くコンテンツの未来: より自由に楽しめるインタラクティブなコンテンツのイメージを体感

原爆ドームVR: ヘッドマウントディスプレイを装着して原爆ドームを探索

イマーシブコンテンツ体験に向けた伸縮ディスプレイ技術: 柔軟でさまざまな形状に変形できるディスプレイ技術

シーン適応型イメージング技術: 被写体に合わせてエリアごとに撮像条件を変更できる新たなイメージング技術

手話CG: 手話CGの表示/非表示や表示サイズ、手話言語をユーザーにて変更可能とするデモ展示

“GamutRings”色域表現の新しい国際標準手法: 明度も含めた3次元の色域を2次元で可視化する新たな表現手法

■ 4K8K 普及推進

ロケット打ち上げ撮影用マルチカメラシステム: 4式の6Kカメラを組み合わせ、縦方向の12K映像を取得、迫力映像の収録

「どうする家康」インカメラVFXミニチュア撮影体験: インカメラVFX技術を活用した番組制作手法の体験

新4K8K衛星放送受信機: 4Kテレビ・8Kテレビの魅力、新4K8K衛星放送の魅力

新4K8K衛星放送受信システム: 基本的な受信方法、その他の受信方法、相談先のご案内(A-PAB)

NHKテクノロジーズ HP ▶



NHK放送技術研究所 HP ▶





光パスコミュニケーションズ

産総研認定ベンチャの(株)光パスコミュニケーションズは、

- (1) 光ファイバ専用網の構築
- (2) 光送受信ハードウェア
- (3) 遅延測定ユニット

の3つの事業を展開している。

特にInterBEE2023では(3)遅延測定ユニットDPN2011Bを放送やネット配信分野で遠隔地間の映像遅延測定に利用できるオプションとして、GPSモジュールDPN2015B/タイミングキーパDPN2016Aをデモ展示した。

DPN2015BはGPS衛星からのパルス信号を使って遠隔地間の映像伝送遅延が測定できるが、新たに「B」型へ進化させ、より幅広い遅延時間の測定が可能となった。

またDPN2016AはOCXO(恒温槽付水晶発振器)を搭載しバッテリーによる給電でDPN2015BもしくはDPN2016A親機からのパルス信号を長時間にわたって正確なタイミングで保持できるとしている。

DPN2015BやDPN2016Aからのタイミ

ング出力をDPN2011B本体と遠隔地に置いたLEDランプ点滅のトリガにすることで、GPS衛星またはそのパルス信号が届きにくい遠隔地間でも映像遅延測定が容易に行なえる。さらに(2)光送受信ハードウェアについては、非圧縮・光による4K映像のゼロ遅延・長距離伝送をデモ展示を実施した。

株式会社光パスコミュニケーションズ (産総研認定ベンチャ)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町

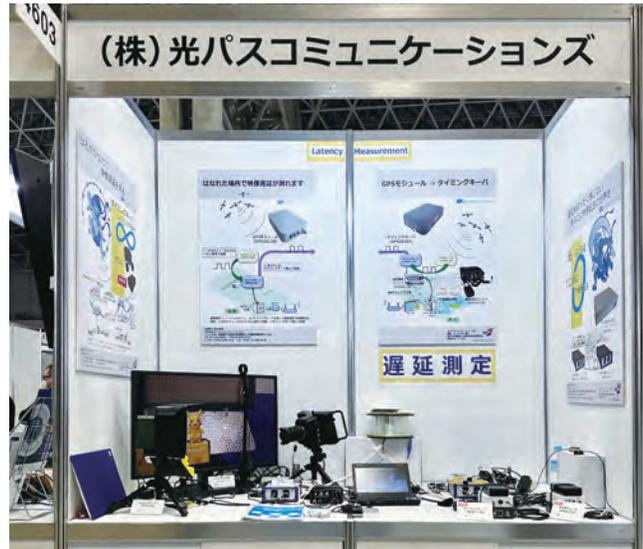
2-4 喜助神田須田町ビル6F

TEL:03-6260-8505

FAX:03-4563-9750

E-mail:info@h-path.co.jp

https://h-path.co.jp



ブースでは、非圧縮・光による4K映像のゼロ遅延・長距離伝送と映像伝送の遅延測定をデモ展示した。



タイミングキーパ DPN2016A

放送・ネット配信の遅延が測れる！

GPS衛星からのパルス信号



GPSモジュール (DPN2015B)

GPSモジュールからのパルス信号で同期

タイミングキーパ同士で同期

NEW タイミングキーパ (DPN2016A)

測定後タイミングキーパとGPSモジュールまたはタイミングキーパ同士再接続すると0.1ミリ秒単位でタイミング保持状態が確認可能

NEW

タイミングキーパ (DPN2016A)

光パスコミュニケーションズ

LEDランプ (明滅)



フォトダイオード



遅延測定ユニット (DPN2011B)



株式会社 光パスコミュニケーションズ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-4

喜助神田須田町ビル 6F

TEL 03-6260-8505 FAX 03-4563-9750

E-mail info@h-path.co.jp URL https://h-path.co.jp



N K L

GFM 日本初お披露目になる機材のデモに加え、ドリーやジブの展示。KFXによる最新リモートヘッドの紹介や、Backstageによる撮影・VE カートの展示も行った。

■ NKL: CARTONIMaxima30
/ CARTONIFOCUS22/
CARTONIFOCUS12

■ GripFactoryMunich

★ GF-Primo
ULTRADOLLY

★ GF-ModJib

・ GF-TeleJib

・ GF-Jib

・ GF-QuadDolly

・ GF-SliderSystem



■ KFXTechnology

★ AURORAMINI

HEAD

・ SLIDERMOTOR

・ ROLLAxis

(NEWHEAD)



■ Backstage
Equipment

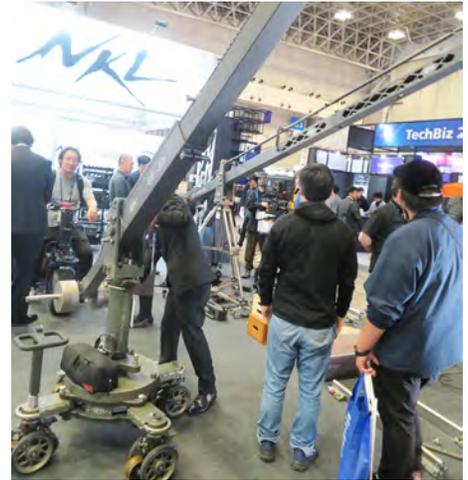
★ Magliner Mini G5

・ Magliner Junior

・ CStandMiniCart

・ MaglinerJunior

Stock



ホームページ



最新カタログ

グラスバレー

放送・映像関連機器の総合メーカー GrassValley は、多くの放送局様で採用されている「EDIUS」の最新バージョン「EDIUS 11」をはじめ、映像制作をより効率的にするために開発された「ChorusHub」を中心としたグループクリエイティブフローなどを展示紹介した。

■ 「EDIUS 11」ノンリニアビデオ編集ソフトウェア



調整クリップ、SNS 用エクスポートプリセットなどの新機能、Mync11 とのさらなる連携、

ソニーXAVCH やHEIF など新フォーマットへの対応、OFX プラグインのネイティブ対応や新しいボーナスコンテンツプラグインなど、さらなる進化を遂げたの EDIUS 最新バージョン。

■ 「Mync11」メディアファイル管理ツール



快適なアセットマネジメントをはじめ、あらゆる素材のプレビュー、マーカーやコメントによるメタデータ検索、さらには EDIUS のプロジェクトとタイムラインシーケンスの管理やAWSS3 へのダイレクトアクセスも可能なオールインワンツール。

■ 「ChorusHub11」グループクリエイティブサーバー



複数の EDIUS や Mync 端末間のハブとなり、プロジェクト・シーケンス・コンテンツ・メタ

データなどの共有機能に加え、オプションで外部端末を介したリモートレンダリングをも可能にするサーバーソリューション。

■ 「EDIUS 11 Turnkey」デスクトップ編集ワークステーション



最新のハードウェアプラットフォームに EDIUS 11 と Windows 11 を搭載した次世代ターンキーシステムを先行展示。

■ 「T2NextGeneration」デジタルディスクレコーダー



さらなる「使いやすさ」「多様性」「堅牢性」を体現したデジタルディスクレコーダーの次世代版「T2Concept-VisionF」を世界初展示。現行版「T24KSeries」に「IP 入出力機能」「VDCP (リモート制御プロトコル)」を追加する最新ファームウェア「Version3.5」も展示。

■ 「GVAMPP」クラウドベースワークフロー



ライブコンテンツを制作/ 管理/ 配信する

ための効率的で柔軟な



ワークフローを実現する

SaaS プラットフォーム。より多くのコンテンツ

を制作し、より多くのチャンネルに配信

する、強力でスケーラブル、かつ安全な環境を

提供。



■ 「GVOrbit」システムオーケストレーター

SDI/IP を問わず、ブロードキャストメディア

ネットワークの動的なオーケストレーション

を可能にする、統合型ソリューション。



<https://www.grassvalley.jp/>



K-WILL

ファイルベースQC ツールを中心に、熟成されたQC ツールの提案を行った。

K-WILL は、コアコンピタンスであるノイズ評価及び検出技術をさらに磨き上げてQC ツールを発展させてきた。基準信号との比較を不要とする場合(NR 方式:NoReference) と、基準信号との比較を行い、より厳格にQC を行う場合(FR 方式:FullReference) の2 つの方式を必要に応じて選択できるのが弊社の強みである。これらのツールを通して、ユーザーのより一層の効率化、省力化に寄与していく。

■4K/2K 映像・音声検査ProQ4000 の提案(NoReference) :PC ワークステーション



ン上で4K/2K ファイルもしくは12GSDI に対して、ブロックノイズ、ラインノイズ、プチ音等一瞬のノイズをリアルタイムで正確にとらえることができる、映像・音声検査装置を提案。さらに本製品は、光点滅やラウドネス等のガイドラインについても同時計測が可能である。ブースでは、検査結果とエラーキャプチャー機能をハンズオンでの展示紹介を行った。

■動画ファイル画質評価VP10000 の提案(FullReference):VP10000 は、4K/2K ファイルもしくはSDI 信号を入力し、基準画像及び評価画像の時間軸を自動補正し、画素同士ピタリと合わせこむことで、PSNR に加えて、ITU-TJ.144 国際標準方式によるDSCQS(二重刺激連続品質尺度)、PixelError(画素エラー)、AudioSNR、VMAF およびSSIM をフレーム単位で計測可能な画質評価装置。ファイルベースでのPSNR、DSCQS、画素エ



ラー、AudioSNR の測定は、実時間以下で高速に評価することが可能。

ブースでは、4K/2K ファイルの高速な画質評価をハンズオンでの説明紹介を行った。

■ベースバンドQC 製品の提案

4K/2KSDI 現用・予備の障害システムを自動判定可能な映像音声自動監視装置 QuMaxPROBE シリーズ、および4K/8K 対応画質評価装置VP4000 を展示し、より進化した製品展開を展示紹介を行った。

<https://www.kmw.co.jp/>



アトラクター

TS 技術・放送技術の専門家として、地域情報サービス、防災情報サービスのための放送・通信システムを提案/構築/開発しているアトラクターは、構造計画研究所との共同展示として、新しい地域情報/地域防災サービスを展示。

デジタル放送のTS 技術として、TS 生成処理/多重処理/解析処理により、TS 送出システム、解析システム、データ放送/字幕関連、IPDC システムを構築する。

本展では『ゲームチェンジ!!』をテーマに、放送電波による3つの地域情報サービスを展示した。これにより、新しい概念の放送サービスとして放送局による地域共創を放送システムとしてサポートする。



■防災無線サービス:テレビ電波で防災行政無線(消防庁)

- ・自治体からの発信でテレビ電波による防災行政無線を実現
- ・2021 年度に消防庁の実証実験を経て防災行政無線等に認定・総務省消防庁によるガイドラインが改訂し全国規模で推進・放送局様の新しい防災事業を共創する送出システムを提供・戸別受信、屋外設備、災害用サイネージとしてサービス化

■地域情報サービス:テレビ電波からスマホへ情報配信

- ・防災ソリューションとして構造計画研究所様と情報連携
- ・平常時/災害時でも繋がる進化したスマホ de リレー
- ・Bluetooth によるスマホへの通信距離は半径100メートル
- ・被災地に通信が無くてもスマホへのプッシュ通知が可能
- ・2つの方式:一斉通知とリレー通知で多くの人にリーチ



■Web3 サービス:テレビ電波+ブロックチェーン実証

- ・新しい概念のWeb3 サービス:DAO/NFT/BC 等のサービス化
- ・放送電波とブロックチェーンによる公的認証を技術実証済
- ・放送電波による特定情報の配信で地域認証サービスに貢献
- ・被災地に通信がなくても公的認証や車両 & 重機認証が可能
- ・個人認証、公的認証、公的セキュリティとしてサービス化

<https://www.att-star.co.jp/>



EIZO

EIZOの最新HDRラインナップを紹介。昨年9月より提供を開始した新製品 Color Navigator APIをはじめ、Color Edge PROMINENCE CG3146、ColorEdge CG 2700X Color Edge CG 2700S、Flex Scan EV3895などを紹介した。

■ColorNavigatorAPI

モニターの表示調整・管理ソフトウェア「ColorNavigator7」のAPI提供を開始。ColorNavigatorAPIを活用することで、外部ソフトウェアやシステムからColor Navigator7の各種機能と連携し、ColorEdgeを制御するプログラムを開発することができる。

■制作業務の手戻り防止に貢献する新機能を搭載27型HDR制作用モニターColor Edge CG2700X/CG2700S

CG2700Xは4K UHD(3840×2160)解像度、CG2700SはWQHD(2560×1440)解像度を持ち、両機種ともにHDR(PQ/HLG方式)ガンマや映像制作専用のカラーモードに対応している。また、キャリブレーションセンサーを内蔵し、高精度に表示調整ができ、

再調整を自動で実施。USB Type-C接続で、MacBook ProをはじめとするハイエンドノートPCにEIZOモニター過去最大の90W以上の給電も可能。さらに有線LANポートも搭載しており、ドッキングステーションの代わりに活用できる、HDR制作用モニターである。

■Pixel Inspection

昨年9月、CG2700XとCG2700Sに、映像制作市場向けの新機能「PixelInspection」を追加した。モニター画面上で指定した座標の色情報を取得できる機能で、映像制作環境における接続ミスや設定ミスによる手戻り防止に貢献する。



■世界初、キャリブレーションセンサー内蔵31.1型HDRリファレンスモニターColor Edge PROMINENCE CG3146

最大輝度1000cd/m²、コントラスト比100万:1のHDRリファレンスモニターCG3146を活用したグレーディング環境を提案。HDR(PQ/HLG方式)カラーモードを備え、12G/6G/3G-SDI入出力にも対応している。CG3146とCG2700Xを組み合わせたEIZOの確かなHDR制作環境は、編集ソフトのタイムラインをウルトラワイドに快適表示。

■Flex Scan EV3895

当社初の37.5型ウルトラワイド曲面モニターで、フルHDの3倍の情報を一つのモニター上に表示できるため、ベゼルレスで視線移動がスムーズです。

<https://www.eizo.co.jp/>



リーダー電子

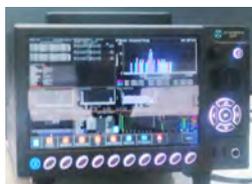
IPシステムのトラブルシューティングデモやPTP切替時にも安定した出力を示すデモを通じて、最新技術を実感。さらに、IP&SDIハイブリッド4K対応波形モニター/ラスタライザーや、PTP対応シンクジェネレーター、アイパターン観測が可能なハンドヘルドSDIアナライザー、ファイルコンテンツチェッカー、クラウドライブソリューション(NDI,CDI,SRTモニタリングシステム)を紹介した。

■SDI & IP Hybrid 波形モニター

LV5600 4入力IP&SDIハイブリッド波形モニター/LV7600 4入力IP&SDIハイブリッドラスタライザー

●LV5600/LV7600のデモ内容

NEW PHABRIX QxP 4K 25 GIP & 12G-SDI ポータブル波形モニター (写真右)



PHABRIX QxL 4K 25 GIP & 12G-SDI ラスタライザー

PHABRIX TAG IP&SDI ハンドヘルドアナ

ライザー & ジェネレーター

■IP Analyzer

LVB440 IP 監視装置/LVB440 デモ内容 SDI 波形モニター/LV5350 2 入力 4K 12G-SDI 対応ポータブル 波形モニター/LV7300 2 入力 4K 12G-SDI 対応ラスタライザー/PHABRIX SxE SDI ハンドヘルドアナライザー & ジェネレーター/Sync Generator /**NEW** LT4670 PTP グランドマスター、ホットスワップ電源対応シンクジェネレーター (写真右)



●LT4670 デモ内容: PTP グランドマスターの BMCA 切替安定デモ/BMCA の切替時に BB 同時切替デモ/機器間同期制御(L-SYNC)による Primary/Backup 機2台の安定デモ/Follow のPTP ステイシンクとスローロックの安定デモ/電波測定器/**NEW** LF995 RF フィールドテスター

●参考出品: GLADIUS(グラディアス) ファイルコンテンツチェッカー



■オンプレミス

●参考出品: クラウドライブソリューション(NDI, CDI, SRTモニタリングシステム)/NDI ネットワークチェッカー



■INTER BEE IP PAVILION

LV5600 4入力IP&SDIハイブリッド波形モニター/PHABRIX QxL IP&SDIハイブリッドラスタライザー/LT4670 PTP グランドマスターシンクジェネレーターなどを紹介

URL:www.leader.co.jp





コルグ

同社が開発した業界市場最高音質のインターネット動画配信システム「Live Extreme」を紹介し、体験ブースを設置。

実際の使用例をもとに、クリエイター、エンジニア、配信事業者、ライブハウス・ホールのためのプレミアム配信ソリューションの紹介などを行った。

5.1.4chのスピーカーレイアウトにて、Live Extremeによる立体音響配信をより効果的に体験できるよう配慮。

さらに、先月ニューヨークで開催されたAES Conventionで発表となった、

AURO-3Dのライブ配信機能、Artist Connection連携機能を国内初公開した。

「Live Extreme」は業界最高音質のインターネット動画配信システムであり、最大4Kの高解像度映像とともに、ビットパーフェクトのロスレス/ハイレゾ・オーディオ(最大PCM384kHz/24bitおよびDSD 5.6MHz)や、AURO-3D、Dolby Atmos、



VR デモ機

HPLなどの立体音響配信にも対応した世界初の画期的なシステム。

なお、同展開催



前に発表されたVEMODEとの提携によるVR 360°3D立体映像&ハイレゾ配信も体験できるようになっていた。

<https://www.live-extreme.net>



伊藤忠ケーブルシステム

映像制作放送関連機材部門展示エリアに出展したほか、IPパビリオンにも出展した。

■放送映像制作ソリューション

報道支援連携ファイルベース・Cloudアーカイブソリューション：Avidで収録・素材取込・プレビュー・編集・送出。AWSS3対応クラウドアーカイブシステムCERCA。報道支援Japrs連携による素材管理ワークフローの紹介。

ライブ制作システムの御提案：制作の要となるスタジオシステムを丸ごと展示。ユーザー目線と業界トレンドを基に厳選した選りすぐりの機器を紹介した。

ネットワーク統合管理：

マルチベンダーの機器・サービスで構成されるネットワーク環境の状態を統合して監視できるDataMinerを紹介。

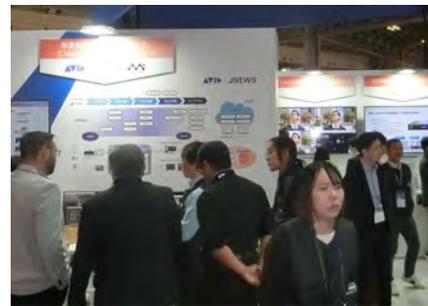
IPライブプロダクション：弊社取り扱い製品を組み合わせた、IPインフラソリューションを紹介。

・幅広い機能を1RUの筐体に搭載したマルチチャンネルプロセッサ『SelenioNetworkProcessor』

・CobaltDigital社のopenGear®製品 RIST対応エンコーダ『Pacificシリーズ』、 Dante対応『Indigo2110-DC-01』

リモートMAシステム：TMCのリモートMAシステムARPS-1は、遠隔地からのCUE出しや双方向コミュニケーションを低遅延で実現するシステム。

QCソリューション：『HardingFPA-Desktop』



最新Ver6.2の新機能を紹介。ファイルベースQC『Pulsar』、クラウドベースQC『Quasar』の特徴を紹介した。

KVM&Multiview統合システム：IHSE社の『DracoKVMシリーズ』とマルチビューワをシングルプラットフォームで制御可能な『VuWall』、最大64ソースまでマルチビュー表示可能なKVM『ScalableLine』を紹介した。

4K制作ソリューション：豊富な実績を持つFacilisのパフォーマンスと、DaVinciResolveやAdobePremiereによるプロジェクト共有をお見せします。ループレコーディングサーバ『PronologymRes』を国内初出展。

LTO/クラウドアーカイブシステム：プレビューとメタデータ管理を兼ね備えたXenData専用コンテンツ管理ソフトウェア『XenDataMAM』を中心に展示。

■OTT(動画配信)ソリューション

マルチプロトコル伝送、ストリームスイッチ：ベースバンドや複数のIP伝送プロトコルが共存する環境で伝送、管理を可能とす



るソリューションを紹介。

次世代映像ストリームプロセッシング：パブリッククラウドでも使用可能な集配信、配信データ組み換えに特化したストリーミングサーバを紹介。

最新配信技術を用いたファンエンゲージメント：ライブ・VODシステムのエンコードからCDNまで製品を広範囲にカバーするISVとして注目を集めるAteme社のシステムをサードパーティ製品と組み合わせるユニークなデモ展示を紹介。

簡易プレイアウトシステム：ニュースや番組映像をYouTube等の配信プラットフォームに24時間365日ライブストリーミングする簡易プレイアウトシステムを紹介。

Bitmovinプレイヤー | アナリティクス：様々なコーデック、DRM、広告挿入に対応したHTML5型Playerあらゆるプレイヤーからデータ解析可能なVideoAnalyticsを紹介。

映像ストリーム監視～QoE/QoS/マルチビューワ：IPマルチビューワやビデオ・ストリームの問題検知を一元的に管理する監視システムを紹介。

<https://www.itochu-cable.co.jp>



池上通信機

「Technology Making Waves ～「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。～をテーマに、「InterBEE2023」に最新の放送機器を出展。前回のInterBEEからさらに進化したロボットアームカメラとスタジオカメラとの2カメラによるインカメラVFX撮影を実現。また、IPPAVILIONへの出展も行った。

■R2(RealRemote)SYSTEM

リモートプロダクションシステム



近年、働き方改革として取り組まれてきた省力化・省人化や自動化の流れは、感染症拡大がもたらしたニューノーマルによって加速している。これまで撮影現場では、リモートカメラ、ロボット雲台、クレーン等が撮影の幅を広げてきているが、無人カメラ（無人スタジオ）の導入、リモート撮影や自動撮影、フルリモート配信等が盛んになってきた中、新たな選択肢として映像制作現場に新しいワークスタイルを提供するのがR2 SYSTEMである。遠隔操作による映像制作の省力化、ソーシャルディスタンスの確保（感染症対策）はもちろん、ロボットアームならではの正確な高速移動・画角変化によるダイナミックなカメラワークと、人間の感性的なカメラワークの両立し、従来の物理的な制限を乗り越えている。高度な再現性と直感的かつシンプルな操作で、誰でも容易に撮影することが可能である。

■IMR-200 IP Media Gateway



SDI <=> IP 変換を行うモジュールを搭載可能な棚板。SDI と IP を相互に変換する「メディアモジュール」を2式まで搭載可能な棚板。1U、奥行500mmで、中継車にも搭載可能な省スペース設計。

■MoIP メディアモジュール

SMPTE ST2110 規格準拠のSDI <=>IP 変換機能を持つメディアモジュール。(SMPTE

ST2110-10/20/21/30/31/40) 1モジュールにて、HD 16系統/4K 4系統を同時に変換可能。

Webブラウザによる操作、RESTful API、SNMPに対応

AMWA NMOS IS-04/05による外部からの制御に対応

■UHK-X700 4K/HD ポータブルカメラシステム



4K/HD ポータブルカメラシステムとして最大のパフォーマンスを発揮するUHK-X700。新開発グローバルシャッタ対応CMOS センサ採用により、ローリングシャッタ歪みやフラッシュバンドのない自然な4K 高画質映像を再現。スタジオ収録はもちろんスポーツ中継、ライブイベントなど動きの早い収録時に高い効果を発揮します。HFR（ハイフレームレート）やHDR（ハイダイナミックレンジ）などUHK-X700は4Kによる高次元の映像制作を実現します。

■UHK-X650 4KアップグレーダブルHD スタジオカメラシステム



UHK-X650は、新開発グローバルシャッタ対応CMOS センサ採用により、ローリングシャッタ歪みやフラッシュバンドのない自然なHD 高画質映像を再現。スタジオ収録はもちろんスポーツ中継、ライブイベントなど動きの早い収録時に高い効果を発揮します。オプションにより、4Kへのアップグレード、HFR（ハイフレームレート）やHDR（ハイダイナミックレンジ）など多彩な機能に対応するスタジオカメラシステムです。



■SHOTOVER M1 ヘリコプター用カメラ

防振装置

2K、4K、および8Kライブ放送のニーズを満たすよう設計された、小型で軽量の6軸ジャイロ安定化ジンバルプラットフォーム。SHOTOVER



M1は、卓越した安定性と比類のないロックダウン（真俯瞰）機能を提供します。

■OnePack series HDTVシステム周辺機器



HDTVシステム構築に欠かせない信号分配モジュール、セレクトモジュールなど各種周辺機器モジュールなど各種周辺機器モジュールを用意。ニーズに合わせた使い勝手の良いシステム構築を可能にします。

■その他

MuPS-5000Series 4K 放送システム対応制作スイッチャー

UHSM-120120 中型ルーティングスイッチャー

DAF-040 オーディオプロセッサ

PF-900 4K/HD デジタルFPU装置

Avid Media Composer ノンリニア編集システム

VOS360media 映像配信プラットフォーム

池上通信機ホームページ

<https://www.ikegami.co.jp/>





アストロデザイン

■8K8K マルチパーパスカメラ



AC-4837
 8192 × 8192 ピクセルのイメージセンサーを搭載した動画カメラです。正方形のイメージセンサーによって魚眼レンズのイメージサークルを効率的にカバーできるため、VRシステムに最適です。またハイフレームレートカメラとして8K4K 120p/8K2K240pの撮影も可能な製品。

■産業・インフラ・スポーツ解析への8K映像利用



AW-8803/AW-8802A/AW-8805

8K の高精細を利用した、産業・インフラ設備・スポーツ解析への応用が始まっています。あらゆる映像シーンに必要な“画像データ”としての採用事例や研究に関するアップデートを紹介します。IP ストリーム対応、AW-8803 による記録・解析など、業界の枠を超えた利用が可能となる。

■ST2110 対応オーディオモニタ



AM-3825

SMPTE ST2110-30/-31 に対応した新しいオーディオモニタ。

SDI、MADI、AES、アナログインターフェースを搭載し、あらゆるシーンでの音声信号監視を実現します。また音声のIP ゲートウェイとしても使用可能。



■メディアインテグレート

4K 入出力フォーマットに対応した新しいビデオウォールプロセッサ。シームレスなマトリクススイッチング、任意タイミングへのスキャンコンバート、インターフェース変換、映像合成/切り出しが可能。商業施設や企業のエントランス、災害対策室や各種監視センター、役員会議室、文教施設などにおいて、複数の情報を効果的に表現できる。



<https://www.astrodesign.co.jp>



武蔵 / 武蔵エスアイ

■ビデオサーバー送出コントロールシステム

DCP-73 XDS Control System



CLIP CASTER XDS MultiControl System



武蔵製ビデオサーバーコントロールシステムは、放送局・CATV・スタジアムなどのスタジオサブシステム内で素材出しや収録を行う際、従来の各種小型ディスクレコーダを出力に合わせて複数台制御し、スイッチャシステムと連動して安価に素材送出/収録システムを構築することが可能。

大掛かりで高価なビデオサーバーシステムを構築することなく、素材送出システムを実現できる。

■ビデオサーバーシリーズ

武蔵製ビデオサーバーはスポーツ中継用スローリプレイ/ハイライト編集及び素材送出機能の内蔵した多機能ビデオサーバーです。1 入力 2 出力から 6 入力 2 出力まで、各種ラインアップをそろえています。素材を収録しながらそのファイルの再生と簡易タイムライン編集が行え、誰にでも簡単にスローリプレイ再生、ハイライト編集が行えます。またスタジオでの番組制作において、収録中及びすでに収録した複数のコンテンツを任意に切り出し、送出順を決め、スタジオスイッチャシステムと連動して素材送出システムを構築可能です。

■ビデオサーバー MVS-1200LP/2200LP

本装置は、Windows ベースの 1 入力 2 出力 (MVS-1200LP) / 2 入力 2 出力 (MVS-2200LP) のビデオサーバーです。

スポーツ中継での撮って出しスロー再生、ハイライト編集、スタジオでの素材ポン出し送出、タリー連動送出等、各種制御用ソフトウェアを内蔵した多機能ビデオサーバーです。



●主な機能●

1TB データディスクに、収録時間 15 時間の映像を収録可能(Mpeg2 I-Only 100Mbps) / 収録ファイルは 2 出力どちらからでも送出可能(V&Key 同期可能) / 収録中の映像を 6 フレームの低遅延で追いかけて再生可能(R-LIVE 機能) / タイムライン方式のハイライト編集で誰にでも簡単にハイライト編集が可能 / GUI による使い易い画面と、武蔵製スローコントローラにより、柔軟な操作が可能 / ファイル転送による、映像のバックアップ及び、放送素材の取り込みが可能 / XDCAM 50MB の MXF ファイルの再生が可能 / XDCAM 50MB、35MB の MXF ファイルの書き出しが可能(ソフトウェアオプション) / GPI またはイーサネットによる外部制御が可能(ソフトウェアオプション) / V&Key に対応した 2 チャンネル同期再生可能 / ハイライト編集時のオーバーラップ、ワイプなどの特殊効果可能(オプション)

<http://www.musashi-si.co.jp>

